

1. 安全を確保する

消防・救急

↑ 満足度	
	参画度→

	満足度	市民参画度
まちづくりアンケート 結果(令和5年度)	63.1%	48.1%
視 点	・消防団員等とのパートナーシップにより消防体制を充実、強化します。 ・少子高齢化に伴う人口減少を踏まえた持続可能な常備消防や消防団のあるべき姿を描きます。 ・耐震性貯水槽の設置を進め、大地震に対する消防水利を確保します。 ・火入れ・たき火などの火災をなくします。	

【現状】 ●災害の激甚化・複雑多様化、新たな感染症の発生拡大や大地震など自然災害の発生が危惧されています。 ●消防需要は高止まり傾向、救急需要は増加傾向にあります。 (以下省略) ●消防団は「自分たちの町は自分たちで守る」という精神に基づき火災活動・災害活動・救助活動等を行っています。 ●大地震などの自然災害が危惧される中、住民の消防団に対する期待は大きくなっています。 (以下省略) ●人口減少する一方で高齢化が進み、救急件数は増加傾向にあります。 ●救急車の現場到着平均時間は、国や県の平均を上回っています。 (以下省略) ●2023(令和5)年中に発生した火災は83件です。(建物火災24件、車両火災6件、林野火災5件、その他火災が48件) ●建物火災24件のうち、8件が住宅・共同住宅、16件が事業所等で発生しています。 (以下省略)	【課題】 ●南分署や東分署、阿山分署、島ヶ原分署などの消防庁舎が老朽化しています。 ●火災出動中の救急要請や、救急出動中の火災発生にも迅速に対応する必要があります。 (以下省略) ●少子高齢化や人口減少が進む中、価値観の多様化により新入団員の確保が年々困難になっています。 ●消防団車両や小型ポンプの更新サイクルが長くなり、老朽化が進展しています。 (以下省略) ●救急車の病院搬送完了時間の短縮が必要です。 ●救急救命士の養成と、有資格者の新規採用が必要です。 (以下省略) ●住宅火災を防ぐ必要があります。 ●事業所等への火災予防査察の強化と違反是正の推進が必要です。 (以下省略)
---	--

火災や急病などで人命が失われないようにする

伊賀流自治における各主体の役割

市民(事業者や団体なども含む)	応急手当の重要性を理解し、応急手当の技術を身につけます。 救急車を正しく利用します。 火災から自らの身を守るため、住宅用火災警報器の設置等、家庭における防火対策を進め、農業に伴う火入りを適切に行います。
地域(住民自治協議会)	自主防災組織や消防団と連携し、防火・救急訓練に取り組みます。 火災予防に対する意識を高めるとともに、事業所の防火管理などを行います。
行政	消防組織の再編や消防団の活性化、関連施設の整備等を計画的に進めます。 確実かつ迅速な消防・救急活動を行います。 事業所への立入検査や火災予防広報等により、火災をなくします。

【計画】 消防施設整備計画、地震防災緊急事業五箇年計画、伊賀市消防本部組織再編計画、伊賀市・名張市消防連携・協力実施計画、伊賀市消防団活性化計画		
常備消防	持続可能な常備消防体制を構築します	消防総務課、通信指令課
	分署の統合等により、常備消防力を強化します。 日勤救急隊の配置等により、救急要請の多くなる時間帯を補完します。 新規採用職員と定年延長職員を含めた人員管理を進めます。 女性職員専用設備の整備を進めます。 名張市との消防連携・協力事業を推進します。	
消防団	持続可能な地域防災力を確保します	地域防災課
	消防団員の加入促進を図ります。 市内小学校を訪問し、次世代を担う学生に社会貢献の喜びを伝えることで未来の消防団員確保につなげる活動を行います。 消防ポンプ庫等の消防施設や、車両・資機材を計画的に更新整備します。 耐震性貯水槽の設置を推進し、迅速な消火活動につなげます。 大地震に対する消防水利を確保します。	
救急	安定した救急体制を構築します	管理課
	日勤救急隊の追加配置等による 24 時間体制の救急隊の補完や、分署の統合等により、病院搬送完了平均時間の短縮を図ります。 救急救命士養成計画を策定し、救急救命士の高度な知識・技術の習得のため、各種研修を推進します。 救命講習の新規受講者を増やすために広報を強化し、関係機関と連携して外国人住民の救命講習を実施します。	
火災予防	火災を未然に防ぎます	予防課
	防火訪問等により住宅火災予防を推進します。 事業所等や危険物施設への立入検査を計画的に実施し、違反是正を行います。 火入れ・たき火などからの火災を防ぐため、火災予防広報を強化します。	